

日本語学習者と母語話者の促音生成の比較
 CREATION OF DOUBLE CONSONANT FOR COMPARING JAPANESE LEARNER
 TO JAPANESE NATIVE SPEAKER

中神裕美子, 専修大学
 Yumiko Nakagami, Senshu University

1. はじめに

「ここまで来てください」、「ここまで切ってください」のように、促音の有無で文章の意味が変化してしまう語、文を対象とした聞き取り、発話に関して、日本語学習者と日本語母語話者における差異を見出すことを目的として今回研究を行った。

2. 先行研究

日本語学習者にとって特殊拍の習得が困難なのは多く知られていることであり、本橋（2005）では、特に単語レベルの促音よりも文レベルの促音の知覚が難しいとされている。さらに、学習者の促音の知覚には、アクセントが関わっている可能性が大きいと皆川（1996）では述べられている。

このように先行研究で述べられているものの、有意味語で尚且つ文中の促音を調査対象としているものが比較的少ないと考え、今回は促音の有無で文章の意味が変化してしまう語、文を対象とした調査を行うこととした。

3. 調査

3.1 調査方法

日本語学習者 6 名に 3 ページにある調査文を、日本語母語話者には 4-5 ページにある調査文を読んでもらい、それぞれのデータを録音し、その音声データを基に学習者と母語話者ではどのような違い、または類似点があるのかを明らかにするため、音声分析ソフト *praat* を用いて調査を行った。

また、学習者が読んだ文を母語話者がどのように判断するか、ということも併せて調査を行った。日本語母語話者の聞き取りの結果は、6 ページの表 1、7 ページの表 2 に抜粋して表示した。

日本語学習者と日本語母語話者の内訳は以下の通りである。

また、日本語学習者のデータを聞き取った日本語母語話者の内訳も以下の通りであり、調査文を読んでもらった母語話者とは異なる母語話者に協力をしてもらった。

3.2 調査対象

《日本語学習者 6名》

中国語母語話者女性A	内モンゴル自治区出身で北方方言	20代
中国語母語話者女性B	山東省出身で北方方言	20代
中国語母語話者女性C	山東省出身で北方方言	20代
中国語母語話者男性D	山東省出身で北方方言（山東方言）	20代
韓国語母語話者男性E	ソウル出身でソウル方言	20代
韓国語母語話者女性F	ソウル出身でソウル方言	20代

《日本語母語話者 5名》

日本語母語話者女性 a	東京都出身	20代
日本語母語話者女性 b	静岡県出身	20代
日本語母語話者女性 c	神奈川県出身	20代
日本語母語話者女性 d	千葉県出身	20代
日本語母語話者男性 e	神奈川県出身	20代

《聞き取り 日本語母語話者 5名》

日本語母語話者女性①	東京都出身	50代
日本語母語話者女性②	神奈川県出身	20代
日本語母語話者女性③	神奈川県出身	10代

【調査用紙1】

出身（ ） 母語（第一言語）（ ） 語）

日本語学習歴（ ）年） 性別（男 / 女）

次の問1から問10の文を読んでください。

問1： テレビで見た^{たいそう}体操をしています。

問2： 私はいえに行った。

問3： ここまで^き来てください。

問4： となりの^{へや}部屋の^{おっと}夫がうるさい。

問5： かっこに書かれた^{ないよう}内容。

問6： 読みたかった^{げっかん}月刊の本。

問7： 有名な^{さか}坂の^{しゃしん}写真。

問8： 新しく^{はけん}派遣された^{ばしょ}場所。

問9： 先日いった^{しゅつちよう}出張について話します。

問10： 昔の人の^{したい}死体。

【調査用紙 2】

出身 () 性別 (男 / 女)

次の問 1 から問 5 の文を読んでください。

問 1 - 1 : テレビで見た^{たいそう}体操をしています。

2 : テレビで見た^{たいそう}体操を知っています。

問 2 - 1 : 私はいえに行った。

2 : 私はいえに居た。

問 3 - 1 : ここまで来^きてください。

2 : ここまで切^きってください

問 4 - 1 : となりの^{へ や}部屋の^{おと}夫がうるさい。

2 : となりの^{へ や}部屋の^{おと}音がうるさい

問5-1 : かつこに書かれた内容ないよう

2 : 過去かこに書かれた内容ないよう

問6-1 : 読みたかった月刊げっかんの本。

2 : 読みたかった下巻げかんの本。

問7-1 : 有名な坂さかの写真。

2 : 有名な作家さっかの写真。

問8-1 : 新しく派遣はけんされた場所。

2 : 新しく発見はっけんされた場所。

問9-1 : 先日いった出張しゅっちょうについて話します。

2 : 先日いった主張しゅちょうについて話します。

問10-1 : 昔の人の死体したい。

2 : 昔の人の失態しったい

3.2 調査結果

特に「テレビで見た体操をしています。」の「して」、「新しく派遣された場所。」の「派遣」の非促音語の日本語母語話者の聞き取りの正答率が低かった。また、促音語の聞き取りの正答率は高く、音響的特徴も母語話者と類似していた。

日本語母語話者の聞き取りの結果、音声分析ソフト *praat* での結果は以下の通りである。

表 1 中国語母語話者女性 A

中国語母語話者女性A		正誤
問1	【テレビで見た体操をしています。】	
東京都出身日本語母語話者：①	テレビで見た体操を知っています。	×
神奈川県出身日本語母語話者：②	テレビで見た体操を知っています。	×
神奈川県出身日本語母語話者：③	テレビで見た体操を知っています。	×

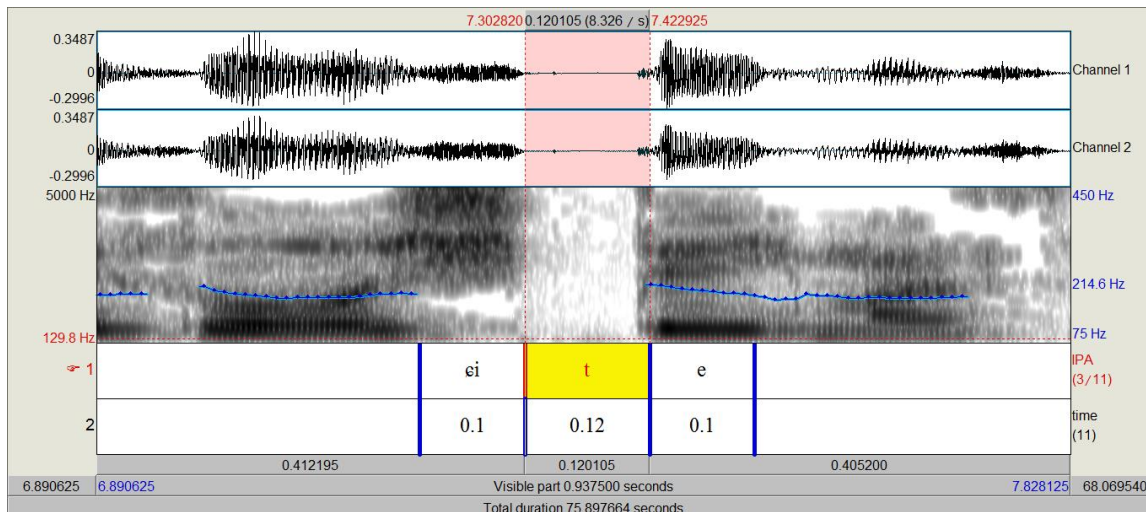


図 1 学習者（中国語母語話者女性 A）

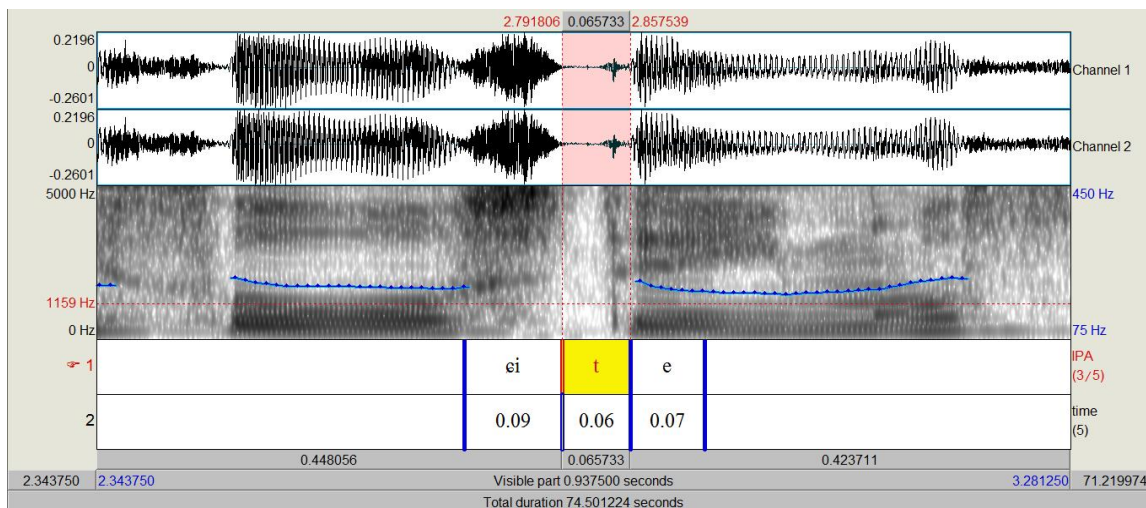


図 2 日本語母語話者（東京都出身女性 a）

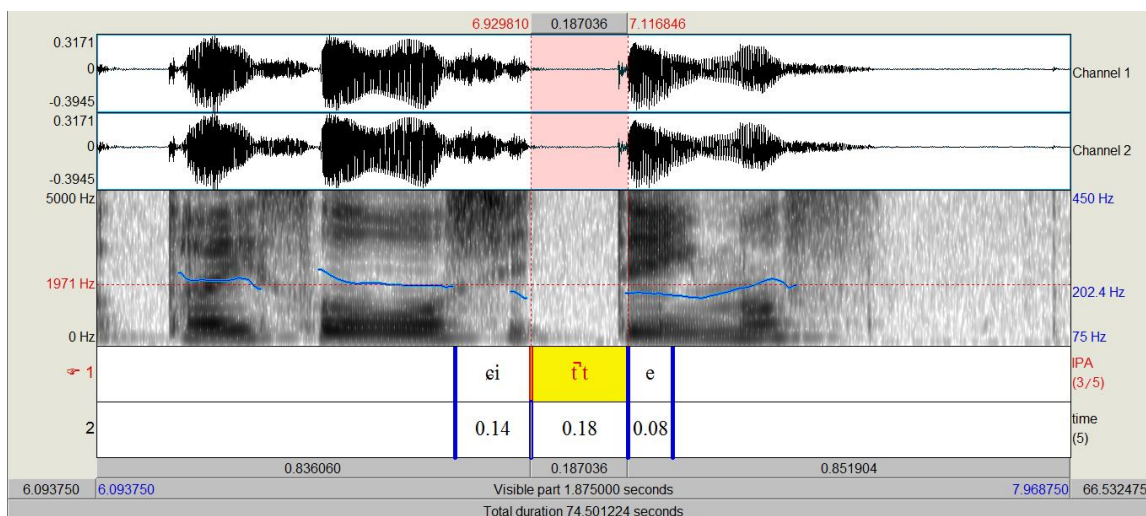


図3 日本語母語話者（東京都出身女性 a）

図1から図3の「して」「してて」を比較してみると、図1の学習者Aの「し」が0.1秒なのに対し、「て」が0.22秒と約2倍になっている。これを図2の母語話者aの「して」と比べると学習者の「t」の子音部が長いことが分かり、さらに図3の母語話者aの「してて」と比べると「t」の子音部の長さが「して」よりも類似していた。

よって学習者の発した「して」を母語話者が「してて」と聞いてしまう要因として「t」の閉鎖部の長さが影響していると考えられる。

表2 中国語母語話者女性B

中国語母語話者女性B		正誤
問8	【新しく派遣された場所。】	
東京都出身日本語母語話者：①	新しく発見された場所。	×
神奈川県出身日本語母語話者：②	新しく発見された場所。	×
神奈川県出身日本語母語話者：③	新しく発見された場所。	×

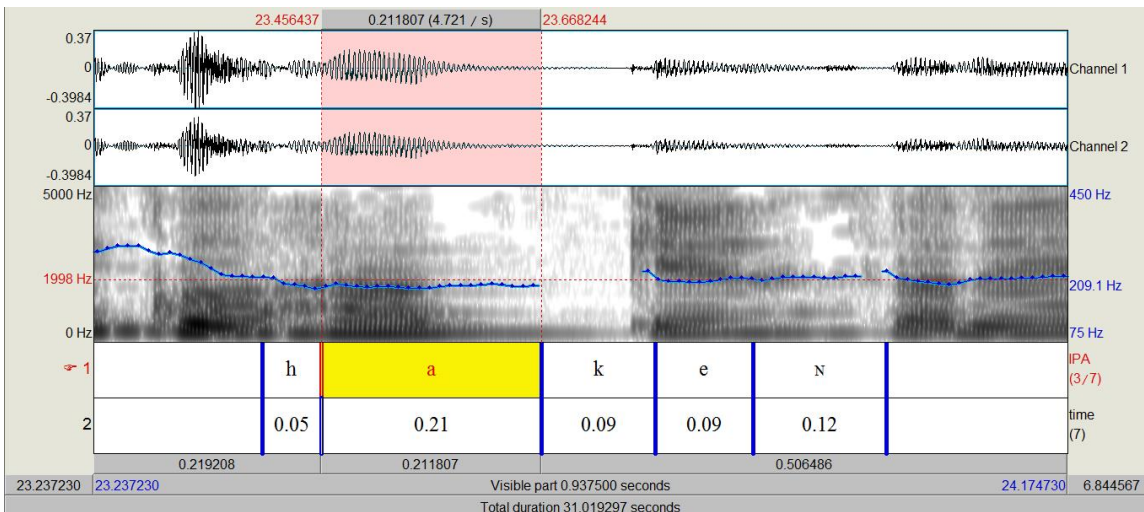


図4 学習者（中国語母語話者女性B）

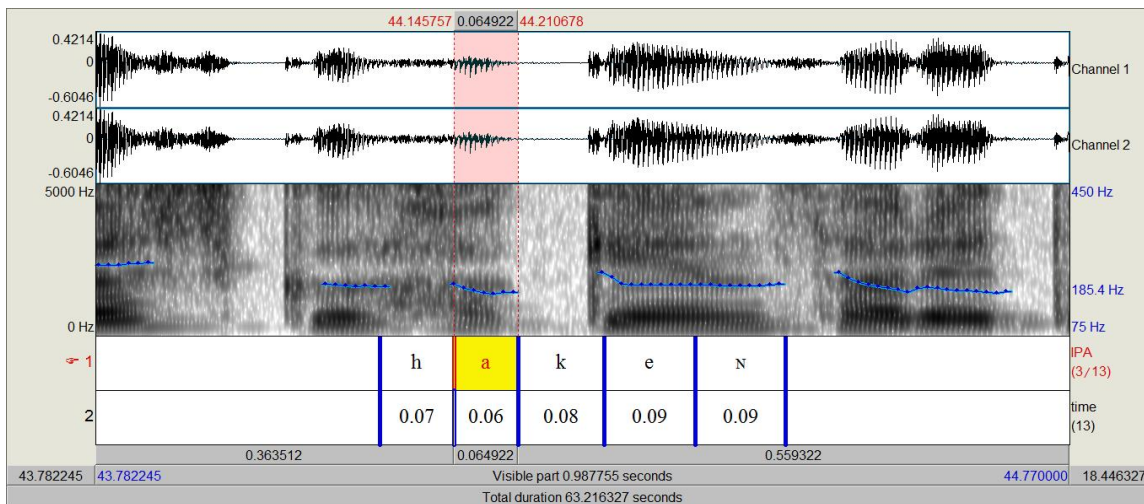


図5 日本語母語話者（静岡県出身女性b）

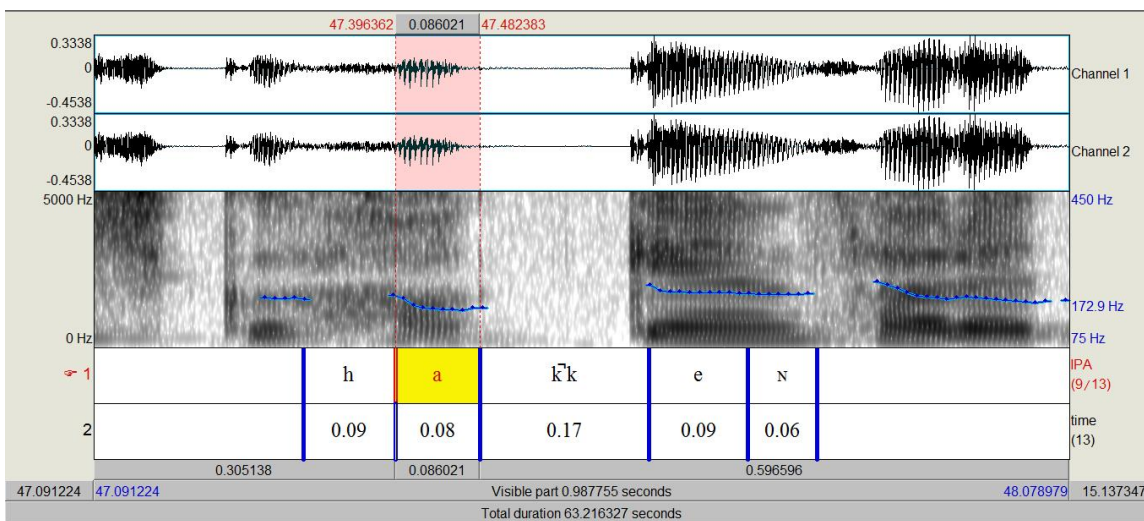


図6 日本語母語話者（静岡県出身女性b）

図4から図6の「はけん」「はっけん」を比較してみると、図4の学習者Bの「は」の母音「a」の長さが0.21秒とかなり長くなっている。これを母語話者bの図5「はけん」、図6「はっけん」と比べてみても、学習者B「a」の母音部分の長さが長いと判断出来る。しかし、「はけん」の「k」の子音部分の長さは学習者、母語話者とも類似していることから、学習者の発した「はけん」を母語話者は「はっけん」と聞いてしまう原因として「a」の母音の長さが影響していると考えられる。

以上の結果から、非促音語の日本語母語話者の聞き取りの正答率が低かった原因として「して」「して」は子音の閉鎖部の長さの影響、「はけん」「はっけん」は母音の長さの影響があると考えられる。

4. 結論

日本語学習者と日本語母語話者における差異、聞き取りの結果から、学習者は、後続子音が/k/と/t/となる非促音語を促音化しやすくなるという傾向がみられた。また、中国語母語話者と韓国語母語話者共に促音化する傾向がみられたため、母語の影響とは考えにくい。そして非促音語の閉鎖が困難であることから、閉鎖部の時間をコントロール出来ていない可能性があり、そのため、促音生成に必要な閉鎖時間もコントロール出来ていない可能性が高いと考えられる。

5. 今後の研究

今後の研究としては、促音化する傾向のあった閉鎖を伴う子音、/t/と/k/に加え、「あっさり」の/s/のように摩擦を伴う促音を中心に学習者と母語話者の差異を、また、母音の長さも促音があるように聞こえてしまう要因となることが考えられるため、その部分にも焦点を当てて研究を進めていきたいと考えている。

参考文献

- 石澤徹 (2011) 「英語を母語とする日本語学習者における日本語促音の誤聴—アクセントと単語内の位置に着目して—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部 第60号 pp.173-181
- (2013) 「特殊モーラ知覚に対する重音節位置とアクセントによる影響—英語母語話者を対象に—」『小出記念日本語教育研究会論文集』(21) pp.19-30
- 皆川泰代 (1996) 「促音識別におけるアクセント型と子音種の要因—韓国・タイ・中国・英・西語母語話者の場合—」『平成8年度日本語教育学会春季大会予稿集』 pp.97-102
- 平田由香里 (1990) 「単語レベル・文レベルにおける日本人の促音の聞き取り—英語を母語とする日本語学習者の場合—」『音声学会会報』195号 pp.4-10
- 本橋美樹 (2005) 「英語話者による促音の認識」『言語文化と日本語教育』Vol.30 pp. 95-98